

各位

山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3

電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



クリンソウ 5/13



サクラソウ 5/13



カッコソウ 5/11

サクラソウの仲間、三姉妹

クリンソウ・・・「九輪草」 花の咲く様子を寺院の塔の請花（うけばな）と水煙の間にある九輪にたとえて名づけられました。

サクラソウ・・・「桜草」 サクラソウの花びらが桜の花びらのように咲く事からこの名がつけられました。

カッコソウ・・・「勝紅草」 サクラソウの仲間、紅色が特に勝っているなのでこの名があります。

野草園5月後半の花々

新緑の季節を迎え、鮮やかな若葉に心が和みます。瀧山も初夏の装いに変わってきました。世界で一つだけのミヤマカスミザクラは終わってしまいましたが、白い総状花序の雄しべが伸びブラシのように見えるウワミズザクラやイヌザクラが満開を迎えます。

「クリンソウの谷」には、サクラソウの仲間の三姉妹が咲き、湿地は日に日に一面ピンク色に染まっています。カッコソウは満開を過ぎ、サクラソウが満開で、クリンソウは1段目が咲いたばかりで、これから2段目、3段目と花柄を伸ばして見頃となっていきます。

一方、園内の「マグノリア通り」や「ツツジの丘」には、ツツジの仲間がたくさん咲き始めています。ヤマツツジやシロヤシオ、サラサドウダンやベニドウダンなど、たくさんの種類がそれぞれの特徴のある花を咲かせます。

広い野草園では、野草の可憐な花がいたる所で見られ、野鳥の鳴き声も聞こえてきます。新緑の樹木や草花の中を歩いて、心と体をリフレッシュしてみませんか。

5月後半の予定

■ 観察会・ガイドウォーキング等のイベントは5月末まで中止します。

- ◆山野草販売 土曜・日曜・祝日に、自然学習センター前で販売します。
- ◆カフェやまぼうし 木曜・土曜・日曜・祝日に営業します。《5/20は臨時休業》
カレー、ピザトースト、バナナシェイク、コーヒー
- ◆第27回野草園の魅力を探る写真コンテスト入賞作品展 令和2年度入賞作品を展示します。
5月15日(土)～7月4日(日)
- ◆博物館実習生募集 募集期間 5月17日(月)～6月30日(水)
実習期間 8月24日(火)～29日(日)
※詳細は野草園ホームページに掲載される申込要項をご確認ください。
(<https://www.yasouen.jp>) (023-634-4120)

●●● 5月後半に見られる主な花たち ●●●



クマガイソウ(ラン科)

杉林や竹林に多く、長い地下茎で繁殖する多年草です。ランではめずらしく幅広い2枚の葉がほぼ対生状につき、袋状に大きくふくらんでいる花を茎の先に1個つけます。

昔、戦場では、矢よけのためにふくらませた布製の袋(母衣)を背負いました。袋状の唇弁を、源氏の武将熊谷次郎直実の母衣(ほろ)に見たてたことが名前の由来です。



ミツガシワ(ミツガシワ科)

氷河期には広く分布していたと推定される寒冷期の遺存種です。山地の沼や沢などに生える多年生の水草で、泥中に太い根茎があります。三ツ柏の紋章に似ているという、名前のもとになった3枚の葉と並んで花茎を立て、白い小さな花を咲かせます。じょうご形の花をよく見ると、花弁に白い縮れた毛が密に生えていて目を引きます。



フデリンドウ(リンドウ科)

山野の日当たりのよいところに生える小さな2年草です。秋に咲くリンドウとくらべると小形です。茎の半ばから上に対生の葉をつけ、その先に青紫色の花を数個つけます。花は上向きに咲き、日光が当たると開き雨天や夕刻では閉じます。茎の先につく花のつぼみ(正確には花が閉じたとき)の形が筆の穂先を思わせることが名前の由来です。



ウラシマソウ(サトイモ科)

一見、マムシグサに似ていますが、肉穂花序の先端の付属体が長く伸長し、釣り糸に見えるのが特徴で、浦島太郎の釣り道具に例えたことが名の由来です。紫の花弁に見えるのは肉穂花序を包む仏炎苞です。サトイモ科なので肥大する地下茎を作り、ある程度大きくなると雄株から雌株に性を変えます。



ヤマツツジ(ツツジ科)

北海道から九州まで広く分布し、日本人の多くに親しまれているツツジです。半常緑低木で、春にでて秋に落葉する春葉と夏から秋にでる夏葉があり、夏葉の多くは越冬します。花の上面に濃紅色の斑点があります。花の色には変化があり、紅紫色や白色のヤマツツジもあります。



ラショウモンカズラ(シソ科)

雑木林や林の縁などに生育する多年草です。太い筒状の紫色の唇形花を、横向きに数段つけます。花冠の長さは4～5 cmで、シソ科の植物としては大きな花です。下唇には模様が見られ、白い毛が密生します。名前は、花の形が羅生門で切り落とされた「青鬼の腕」に例えてつけられたと言われています。



レンゲツツジ(ツツジ科)

つぼみの様子をレンゲの花に見たてた名です。草原や林縁に生える落葉低木で、葉の展開と同時に朱橙色の花が開花します。1個の花芽から2～8個の花が咲き、日本のツツジの中ではもっとも大きい花を付けます。花弁の上側に斑点があるのと、葉の表にしわがあるのが特徴の1つです。有毒植物で家畜が食べないので牧場などに多くあります。



サラサドウダン(ツツジ科)

深山の林内や林縁、岩場に自生し、ドウダンツツジの仲間では最も北方まで分布しています。花は淡紅白色で紅色の縦の筋があります。更紗のような模様が名前の由来になっています。白いドウダンツツジと花の形は似ていますが、壺形にならず先が広がり鐘形になるところが違います。



タニウツギ（スイカズラ科）

主に日本海側の山地に生える高さ2～3mの落葉低木です。小枝の先端に、淡紅色の先が5裂した漏斗形の花が2～3個ずつまとまってつきます。田植えの時期に花が咲くので「田植花」とも呼ばれます。多くの地方名があることから、人々と深いかかわりがあったことがわかります。



ミヤマガマズミ（ガマズミ科）

山地に生える高さ1～3mの落葉低木です。葉は葉脈がくぼんで目立ち、表面は無毛ですべすべし光沢があります。枝の先に白い小花の散房花序（枝の上部からたくさんの花柄が出てたくさんの花が球面上に集まって咲く）が付きます。同じ仲間のガマズミより先に開花します。



トチノキ（ムクロジ科）

落葉高木で主に冷温帯域の山地に生育し、高さ30mほどの巨木に成長することもあります。葉は大きく、5～7つに掌状に分かれており、天狗の団扇と呼ばれたいくなるような形をしています。白い大型の房状花序を付けます。花はとても甘い香りがし、果実のトチの実は加工して餅に使われたり、トチ笛などの工作の材料となります。



オドリコソウ（シソ科）

ヨーロッパ原産のヒメオドリコソウにおかれて、本種の存在感がなくなっています。東アジアの温帯に広く分布し、山野や道ばたの半日陰に生える多年草です。葉のわきに淡紅紫色または白色の花を数個輪生します。花の形が笠をかぶった踊り子の姿に似ていることが名前の由来です。よく見るほどに、踊り子を連想させられます。



ホタルカズラ（ムラサキ科）

乾いた草地や林縁に生える多年草です。小さい花ですが、ムラサキ科の中では一番の大きさです。蛍光を発しているような青い色は遠くからでも目立ちます。そこから、ホタルの名がつけました。花が咲いている時はカズラの意味はわかりませんが、花後に根もとからつるが出てきて新しい株をつくります。それでカズラの名前がついています。



マイヅルソウ(キジカクシ科)

山地から亜高山帯の針葉樹林内に生える多年草です。葉の形は心形で、先が尖り基部が深く葉脈が目立ちます。茎はまっすぐでなく、「くの字」に曲がりその先に白い小花の総状花序をつけます。大きく広げた2枚の葉の様子を羽に、花序を頭に見立て、全体として鶴が舞う姿に例えたことが名前の由来です。



ヒメシャガ(アヤメ科)

山地の林の下などに生える多年草です。草丈が20～30cm、葉先が尖る細長い葉を株立ちさせ、根茎が横に這って増えていきます。花がシャガに比べてやや小型なので、《ヒメ》がつけました。径4cm程の淡紫色の花を2～3個咲かせます。外花被片の中央は白色で、紫色の脈と黄色の斑紋があり《とさか状》の突起があります。



ホオノキ(モクレン科)

大きくなる木で、高さは30m以上になるものもあります。葉は長さ20～40cmにもなり、裏面は白色を帯びています。葉は互生しますが、枝先に束生するので輪生状に見えます。花も大型で、白い花が真上に向かって開花し芳香があります。ホオノキは花弁がらせん状に配列し、萼片と花弁の区別も明瞭ではありません。



ナナカマド(バラ科)

山地の林縁などに生える落葉小高木で、公園や庭にも植えられています。葉は奇数羽状複葉で、秋には紅葉します。枝先に複散房花序を出し、白い5弁花を多数つけます。名前は7度かまどに入れても燃え残るほど丈夫だということからつけられたようです。山形市の木に指定されています。



イワカガミ(イワウメ科)

深山に生える常緑の多年草。茎は短く、しばしば地に接し、根ぎわに長い柄の径3～6cmの葉が群生します。葉は皮質で表面に光沢があります。初夏、葉の間から高さ10cmほどの花茎を直立し、総状花序をなして、淡紅色の花を3～6個開きます。萼5、花冠5裂、雄しべ5。蒴果を結びます。葉が径12cm位になるものをオオイワカガミといいます。